

ほとけの 混和会だより

平成三十年三月

東光院

仏の混和会

第132号

比叡山寒行の集い



比叡の山中を巡拝

一月二十日、二十一日、比叡山にて、日頃の喧騒を離れ心静かに写経や座禅などの修業体験をしてきました。お二人の感想を頂きましたのでご紹介致します。

● 寒行の体験

一月二十日、二十一日と比叡山の寒行の集いに参加しました。比叡山には観光で訪れたことはありましたが寒行はなかつたので単純に体験してみたいと言う思いで参加しました。只写経を初めてでも浅く、ま

の不安や期待もありました。延暦寺会館に着き、午後から「寒行の集い」が始まりました。厳かに進行するにつれて自分の中に複雑な緊張感と不安がつのりそのまます写経に臨みました。前半は心落ち着かず自分との葛藤の時間がちました。休憩後は吹っ切れたように聞き直り時間の経つのが早く心境の変化は自分自身解せず心が要らぬ緊張で平常心は保てず不甲斐なさを痛感しました。「平常心」自分への大きな課題と成りました。座禅では無の境地にはなれませんが法師如来様に前に一心に祈りました。法話は高僧の体験談を直接聞き印象深く残っております。一泊二日の寒行に参加し貴重な初体験して学ぶ事が多くあります。今後の生活に繋ぎたい努力したいと思います。寒行を終えて比叡山を下り京都三十三間堂と養源院を拝親しみたいですね。新発見あり興味津々でした。天候にも恵まれ寒さもなく、皆和気あいあい楽しい寒行の旅でした。ちなみに翌日は大雪でした。



90日間の修行体験談を拝聴

● 寒行に行ってきました。

一月二十日、二十一日と比叡山の寒行に行ってきました。去年亡くなった祖父が参加した事は、あまり覚えていませんが写真は見ることがあります。昨年祖母と祖父が亡くなり、葬式、四十九日法要、新盆と、仏事が続く中、お坊さんと接する機会が多くありました。テレビで見た滝に打たれたか、寒い中の山歩きやらを思い浮かべましたが、内気なぼくは決心がつかないでいましたが、母に「じいちゃんが見守って居るよ。」って言ってくれました。新幹線で京都まで行き、湖西線の大津京で電車を降りると、そこには比叡山の送迎バスが待っていてくれました。

そして比叡山に登り、寒行の説明を聞いた後、先ず写経をしました。初めて墨をすりお経を写しました。決して上手く書けたいとは思いませんが、ずっと座つてもくくと写すだけの事ですが達成感を得ました。

翌朝、根本中堂の座禅では無の世界に入る事でしたが、なかなか脳が言う事を聞きません。無になるうと思えば思うほど、何故かゲームの攻略の仕方とか浮かんできてしまったり、無になると相当難しいものです。ましてゲームの事を考えようなんて、パチが当たりそうなんて思っていました。そんな時、比叡山のお坊さんが肩のあたりを棒でたたいて下さった時には一瞬「はっ」と夢からさめたような、我に帰ったような、うれしいような不思議な感覚がしました。写経、座禅、巡拝等々二日はあっという間に終了しました。夕方新幹線の間かでのニュースが関東地方大雪の恐ろしく何度もテロップが流れて増した。帰宅した翌日の夕方には品川駅の大変な混雑がテレビで流れていました。一日すれていたら大変でした。寒行のご加護を少し頂いて守ってくれたのかななんて、ふっと思ったりしました。多分参加した皆さんもそう感じたかも知れません。東光院のお坊さん、同行させてもらいありがとうございました。又仕事や遊び普通に食事が出来たりする事に感謝します。



日本仏教に登場する仏様を、毎号少しずつご紹介。今回は如来部の毘盧遮那如来を紹介いたします。

●如来部

毘盧遮那如来
びるしゃなによらい

毘盧遮那如来とはお釈迦様が悟られた境地、仏教の教えそのものを仏様の形に仏格化した仏様です。逆を言えば、毘盧遮那如来の教えをお釈迦様が代弁して私たちに伝えておりました。

この仏様どのような姿をされているかと言いますと、奈良の東大寺にお祀りされている大きな大仏様、あれが毘盧遮那如来です。

毘盧遮那如来は蓮華藏世界という千枚もの花びらがある、大きな蓮華かなる極楽浄土のような世界に住んでおり、この大きな蓮華の上に座られております。

凄いに、座られている蓮華に有る千枚の花びらの一枚一枚に自らの分身である仏様が同じく千枚もの花びら一枚一枚には百億の仏の世界が存在し、その世界にも一人ずつ分身の仏様が存在すると言われております。

つまり、毘盧遮那如来の座られている下には千人もの分身がおられ、その分身一人一人の下には更に百

億×千もの分身が…

このように、とてつもない数の仏様と世界を見守る事から、毘盧遮那如来は奈良の大仏のような大きな姿へとなりました。

そんな毘盧遮那如来は、様々な世界を見守る事から現世安穩の御利益があると考えられており、奈良の大仏が造られた天平十七年(七四五)という時代は、疫病の猛威に干ばつによる飢饉、更に大地震によって各地大きな被害を受けるなど、度重なる社会不安をどうにか仏の力を借りて国を立て直そうという願いも有って大きな大仏を造られたのではないのでしょうか。

…余談

奈良の大仏と大仏殿の建立に当たって、約二六〇万人もの人が工事に携わったと算する、その建立費用を現在のお金で換算すると、約四千六百五十七億円もかかるそうです。現代のような機械も無い中、全て人力であれほど大きな仏様を造られたと思うと、当時の人々の思いの力は驚くばかりです。



奈良 東大寺
銅製 座像
盧舎那仏座像

亮澄拝

暦の上では…



立春とは申しませんが、まだ寒さの厳しい日が続いておりまして。一月末の大雪では連日雪かきに追われ、雪国の過酷さを想像させられました。

節分会を行いました

当日は比較的暖かく、恵まれた天候の中で皆様と共に一年の安穩を祈念することが出来たかと思えます。

東光院の節分会は皆さんで三六五日分の『般若心経』を誦誦する日数一般のお勧めを行います。そして一般的には「鬼は外、福は内」のかけ声の下に、豆を投げて鬼や魔を追い払いますが、「鬼は外」とはあえて言いません。



これは仏法によつて鬼ですら改心させてしまうからなどと言われ

しております。どんなに立派な人であっても鬼の心を宿してしまう恐れがあるように、裏を返せば鬼であつても僅かな良心が生じる可能性があるのです。道元禅師の言葉にこのようなのもありません「愛語能よく廻天の力あることを学ぶべきなり」。愛語は菩薩の実践目の一つで、相手をいたわった慈愛の念から生じる優しい言葉遣いを指します。しばしこうした言葉は天を廻らすほどの力を及ぼすことがあることを知るべきです。鬼だからとはじめから出て行けと思ひ嫌うのではなく、先ずはその鬼がどういったものなのかをよく見詰め、救いの道を模索することが大切なのかもしれません。



また、当日の運営スタッフをはじめ、会場設営、豆まき用お菓子や焼き鳥、野菜等々の御奉納など、今年も節分会も多くの皆様のご協力の元に無事開催することができました。

来場いただいた方も含め、心より感謝申し上げます。

亮敬拝